

教科	技術・家庭(家庭分野)	学年	第3学年
----	-------------	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B住生活 1住まいのはたらきとこちよさ ①住まいのはたらき ②住まいの空間	2	○家族の生活と住空間との関わりが分かり、住居の基本的な機能について理解する。	住まいのはたらきには、機能的なはたらきと精神的なはたらきがあることを理解している。 日本の伝統的な住まいは、地域の材料を使い、気候風土に合わせて、自然のよさを取り入れたりして工夫されていることを理解している。	じゆぶんの住まいを点検し、改善できることを考えている。	自分の住まいについて、家族がよりこちよく生活するために改善できそうなことを考えることができる。 住まい方に対する自分なりの意見をもつことができる。
2安全な住まいで安全な暮らし ①家庭内事故への備え ②災害への備え	2	○家族の安全を考えた住空間の整え方について考え、工夫する。 ○家庭内の事故の防ぎ方など家族の安全を考えた住空間の整え方について理解する。	家庭内の自己の種類とその原因を理解し、安全を考えた住空間の整え方を身に付けている。 住まいの地震対策から安全確保の方法を挙げることができる。	幼児や高齢者の家庭内の自己の防ぎ方や安全対策を考えて工夫している。 地域で起こりうる自然災害を見据え、自分の家でできる安全対策を論理的に考え、具体的に方法を表現している。	幼児や高齢者を含めた誰もが安全に暮らせる住まい方について工夫し、自分の家の安全対策で実践しようとしている。 自分や家族が避難したことを前提に物理的・心理的・心情的な綿からより穏やかに暮らせるよう最適解を求めて追究している。
3持続可能な住生活	1	○持続可能な社会の実現に向けて、さまざまな住まいと住まい方の工夫があることを知る。	持続可能な社会の実現に向けて、さまざまな住まいと住まい方の工夫があることについて理解している。		学習したことをふり振り返りながら、持続可能な住生活を工夫し創造し、実現しようとしている。
A家族・家庭生活 ①自分の成長と家族・家庭生活 ②幼児の生活と家族 ③幼児とのかかわり ④家庭生活と地域のかかわり ⑤持続可能な家庭生活	4	○自分の成長と、家族や地域の人々とのかかわりと、自分自身の理解を深める。 ○自分の成長を振り返り、幼児期への関心をもつようにする。 ○幼児の心身の発達について方向性や順序性ととも、個人差があることを理解する。 ○介護など高齢者との関わり方について理解している。 ○誰もが尊重される家庭・地域の生活をめざして、課題をみつ、実践的に取り組む。	家庭にはさまざまな活動があること、家庭の主な機能について理解している。 幼児の体の発達について話し合いに参加したりよく考えたりして、幼児の身体の発育について、発達の方向性や順序性ととも、個人差があることを理解している。 さまざまな場面を見たり、話し合いをしたりする活動を通して、幼児の言語、認知、情緒、社会性などの発達について理解している。	現在の自分は、家庭を支える仕事について何ができるか考えている。 幼児の成長は周囲の人とのかかわりや支えの中で育まれたことを自分の成長を振り返りながら理解し、幼児と幼児の学習に対して関心を寄せている。	子どもの発達を理解し、子どもが育つ環境としての、家族や周囲のおとなの役割について説明できる。 幼児とのよりよい関わり方を考え、課題の解決に主体的に取り組んでいる。 地域との関わりについて、課題の解決に主体的に取り組んだり、ふり返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
B衣生活 ③生活を豊かにするものの製作 ④持続可能な衣生活をめざして	9	○布を用いて生活を豊かにすつもの考えることができる。 ○製作の手順と要点を調べ、必要な道具と完成までの流れを理解できる。 ○資源や環境に配慮した衣生活をおくるために工夫できることを考える。	布や用具を正しく安全に扱い、意欲的に製作を進めることができる。	完成までの見通しをもち、デザイン画を含めた製作計画を立てることができる。 資源や環境に配慮した衣生活をおくることについて考え、工夫している。	製作の基礎・基本の習得に主体的に取り組む、よりよい製作を実践しようとしている。